

加古川中流圏域河川整備計画 加西ブロック第三回懇話会

< 議 事 要 旨 >

日 時 平成24年3月5日(月) 10:00 ~ 12:00

場 所 加西市役所 5階大会議室

出席者 約12名

(委員4名、事務局5名、関係機関2名、一般傍聴(報道関係者)1名)

	氏 名	所属・役職等	出欠
学識 経験者	かんだ けいいち 神田 佳一	明石工業高等専門学校 教授	
地元	おうち りょうぞう 尾内 良三	加西ナチュラルリストクラブ 会長	
	たまおき ひろみつ 玉置 博充	賀茂地区関係	
	まつやま しげる 松山 茂	繁陽町関係	
	さいめん としゆき 西面 壽幸	富合地区関係	

(敬称略 順不同)

	氏 名	所属・役職等	出欠
事務局	恒藤 博文	県土整備部 土木局 総合治水課 計画係 係長	
	山口 一哉	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長	
	中村 雅彦	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長補佐	
	関 正造	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長補佐	
	橋本 良平	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 職員	

(敬称略 順不同)

	氏 名	所属・役職等	出欠
関係者	中川 和明	加西市都市開発部次長兼土木課長	
	森 泰利	加西市都市開発部土木課主幹	

(敬称略 順不同)

	氏名・所属・役職等
事務局補助	田淵昌之、常森達矢、牧俊行、坂本奈穂 ((株) 建設技術研究所)

議事概要

1. 開会挨拶

：兵庫県総合治水課 計画係 恒藤係長

2. 出席者の紹介

(1) 懇話会委員の紹介：各委員 自己紹介

(2) 事務局の紹介

3. 議事 0 (懇談会運営について)

(1) 加古川中流圏域河川整備計画 加西ブロック懇話会の設置要綱、傍聴規程、情報公開要領
(案)：事務局説明

4. 議事 1 (これまでの経緯等について)

(1) これまでの経緯 (過去の懇話会・地域ブロック懇話会の概要)：事務局説明

(2) 平成 16 年 10 月台風 23 号災害対策の概要と効果：事務局説明

(3) 平成 23 年 9 月台風 12 号・15 号による被害について：事務局説明

(4) 討議

1) 平成 16 年 10 月台風 23 号災害対策の概要と効果、平成 23 年 9 月台風 12 号・15 号による被害について

- ・ 予期しないゲリラ豪雨のような異常気象に対応して、加西地区の川へかかる加古川本川のバックウォーターの解消が、河川管理者としての課題ではないか。また、県管理区間、本川までの区間を含めた対応が市や地元に残された問題・課題であると考え。(玉置委員)
- ・ 県の方でも課題だと考えている。河川法の改正の動きはないが、県では「総合治水条例」を来年度に制定する。これまで避難勧告や水防活動への支援、ソフト対策も実施してきたが、今後は市・県・地域住民が一体となって水路・田んぼ・ため池等を活用した流域対策や、地元への避難経路・内水ハザードマップの作成・避難のための連携体制などの減災対策、それらを組み合わせた総合的な流域対策・治水対策を平成 24 年度より順次、地元と策定することを考えている。(事務局)
- ・ 全体的な流域界に及ぼす水量について考え直す必要があるのではないか。圃場では一時的にかなりの量の水を溜められるので、これからはこういったものも考えるべきである。(尾内委員)
- ・ 加古川流域には田んぼやため池など潜在的なポテンシャルを持ったものが多い。現在田んぼの貯蓄能力を研究中なので、総合的な流域対策を皆さんと協議する場で報告したい。(事務局)

-
- ・ 計画対象としている降雨は、以前から変更はないのか。(神田委員)
 - ・ 現在では概ね 150 年に 1 回程度の降雨規模(国包地点)を目標にしている。現在のゲリラ豪雨については、整備計画では氾濫が起きる場合もあるので、流域全体での減災機能の向上に努めたい。(事務局)
 - ・ 低水路内の土砂堆積に対する管理計画はあるのか。(松山委員)
 - ・ 現時点では災害復旧を優先しているが、台風 12 号で堆積した土砂に対して土砂の除去を行っており、断面確保の観点から、河床掘削を行う考えである。堤防の草刈りは地域住民が、河道内の堆積土砂の除去や樹木伐採等は県が対応するといった役割分担で維持管理を行っている。(事務局)
 - ・ 以前の懇話会では現地視察を行ったが、その時から河川の状況に変化はないか、また流域の状況として市街化や保水能力にも変化はないか。(神田委員)
 - ・ 20 年以上前と比較すると、堆積しやすい箇所、深掘れして護岸が下がってしまいそうな箇所が存在する。6 年前の現地視察時との比較でも同様の傾向がある。市街化や保水力についてはあまり変化がない。(事務局)
 - ・ 昭和 50、60 年代の河川改修では、画一的な方法で実施されていたが、現在は多自然川づくりを目指した工法もある。自然環境面としてもいい面がかなりあるので、環境面と治水面を考慮した川づくりが必要である。(神田委員)

2) 意見・要望

- ・ 河川改修による治水対策は相当な時間がかかるため、まずは地域で保水力を田んぼに持たせ、その上でため池を整備するなど、行政指導を徹底してほしい。(玉置委員)
- ・ 根固めが浅く法面ブロックなどが崩れやすいので、根固めを深くすべきである。既設のものについても場所により強化してほしい。(尾内委員)

5. 議事 2 (加古川中流圏域河川整備計画(原案)について)

(1) 第 1 章河川整備計画の目標に関する事項(第 1 節～第 6 節): 事務局説明

(2) 討議

1) 河川整備の現状と課題について

- ・ 正常流量はどのような設定になっているのか。水利のための流量、河川の正常な機能を維持するための維持流量、湧水流量など種類がある。(神田委員)
- ・ 整備計画の目標は現時点では未検討である。次回にはお伝えできるようにする。(事務局)
- ・ 普段どれだけ流量があるかが環境面で非常に重要なので、整備目標の正常流量についてはよく検討して設定してほしい。(神田委員)
- ・ 目標の設定にあたっては、利水のみならず、環境(生息する生物)に配慮した流量とする予定である。(事務局)

2) 意見・要望

- ・ 北部の植生は保水力の低い針葉樹が、南部の植生は保水力の高い落葉広葉樹が多い。北部については、保水力の低いことを踏まえた対策をしてほしい。(尾内委員)

6. 議事 3 (今後のスケジュールについて)

(1) 今後のスケジュールについて：事務局説明

(2) 討議

- ・ 意見なし(了承して頂いた)

7. 閉会挨拶

：兵庫県総合治水課 計画係 恒藤係長
以上